

1 2月3日（修学旅行結団式）

30年後も鮮明に思い出せる修学旅行に！～主体的・自主的に五感で旅する～

1603年に江戸幕府が置かれて以来、400年以上にわたり東京（江戸）は日本の政治、経済、文化などの中心都市です。東京を一言で表せと言われたら、私は「混交」と答えます。和と洋、今と昔、自然と人工物・・・また、出身地など様々な背景を持った1300万人超の人々が暮らし、そのうち外国人が約45万人と言われていいます。まさに歴史、文化、人々などが「混交」する街、というのが私の持つ東京のイメージです。

末廣亭（寄席）や歌舞伎座など伝統文化を堪能できる場所もありますが、みなさんは初日、ルミネザヨシモトで漫才や新喜劇など新しいお笑い文化に触れることでしょうか。二日目の班別自主研修では、是非、東京の様々な顔を見て、「混交」を実感して来てください。百聞は一見に如かず、です。また、立ち並ぶ高層ビルやマンションを見上げる時があれば、最終日の訪問地、浅草地区では下町情緒たっぷりの一面に触れることと思います。その他、留学生との語学研修、グローバルコースのメンバーは上智大学の訪問、また東京ディズニーリゾート研修など盛りだくさんですね。みなさんの目には、首都東京はどのように写るのでしょうか。

ちなみに私の高校時代の修学旅行の行先は京都と奈良。当時の修学旅行先の定番中の定番でした。真夏のうだるような暑さの中を移動・見学しました。京都御所、銀閣寺、三十三間堂、本能寺、仁和寺。これは班別自主研修で回った見学地です。30年以上経った今でもこれらの見学地は鮮明に記憶の中に残っています。しかし、クラス一齊に見学した場所は断片的な記憶しかありません。この違いは何でしょうか。自主研修は、まず自分たちで訪れたい場所を決めて、下調べを行い、当日は自分たちで様々な交通手段を駆使して目的地まで何とか辿り着く。一方、クラス見学では連れて行かれるがままで、そこにはほとんど自主性や主体性はありませんでした。

みなさんは東京やディズニーリゾートで何を見て、何を聞いて、何を食べ、何を考え、何を感じるのでしょうか。楽しみですね。感性を研ぎ澄ませ、自主性や主体性を持って出発してください。同じ体験でも感じ方は十人十色。行く先々での「私は、〇〇〇〇だと思った」を大切に。2年後に控えた東京オリンピック・パラリンピックを前に東京はいよいよ活気づき、競技会場や海外からのお客様を受け入れる態勢など着々と準備が進んでいることでしょうか。

さあ、いよいよ修学旅行の始まりです。30年後の同窓会では「そんなところ行ったっけ？」ではなく、「〇〇は楽しかったよね。」と鮮明な思い出として仲間と語り合えるよう、首都東京のダイナミズムを、様々な人やモノが混交するダイバーシティを、その目で、その耳で、その舌で、その鼻で、そしてその皮膚で、五感をフル稼働させて全身で感じ、存分に楽しんで来ててください！！